

ことは、町民の利便性の欠如や中心市街地の衰退など、現時点では移転適地が見つからない状況です。

災害時の拠点施設は高台の市宇ヶ丘学園の敷地内に移転し、通常業務を行う施設は海部病院の跡地に移転してはどうかと考えます。

つぎに海部消防本部の移

転ですが、財政的余裕がなく移転先を議論する段階には至っていません。南海地震の発生率が高まっている中、消防本部は大地震時には、真に必要な災害拠点施設ですので、早期に高台移転を考えていく必要があると考えます。

慰霊踊り・音頭の保存・継承を

一山 稔 議員

慰霊踊りは、初盆の方の供養として受け継がれてきたが、音頭の語り手、三味線を弾く人や拍子木を打つ人などの後継者が不足しています。無形文化財に指定されており、子ども達に伝統文化を伝えていくため学校教育の一環として取り組みができないものか。

中学校で、三味線の教室が持たれているが、どのような内容か、慰霊踊りや音頭等の教室もどうか、子どもの時から習い覚えていれ

ば成長し、帰省した時などに、手伝いしてもらえらると思うが、後継者不足に対する考えは。

踊りの時、櫓(やぐら)を設置するが運搬にも苦労しているようで、町でユニツク車などの準備等はできないか、「音頭保存会」の人達も踊りが絶えてしまわないか心配しています。踊りや音頭を残していける方法を模索していただきたいが、今後の取り組み考えをお伺いします。

福井町長

慰霊踊りは昔から町民の方が取り組んできた先祖を祭る踊りが今に至っていることで、文化財に指定されているが、今後、町がどこまで主体的に取り組んでいくかは、現時点ではお答えできません。

久米教育次長

文化財指定当時から後継者不足が懸念され、それが申請の理由の一つであり、保存継承に向けた活動が保

存団体を中心に取り組まれてきました。また、用具の補修とか映像、音源記録等により、文化財の保存の観点から取り組みを行っています。

保・小・中一貫教育構想の理念に基づき地域の方々のサポートをいただきながら、交流の場づくりを進めています。音頭、踊りも関係者に指導いただきながら発表の場を持つたり、地域の慰霊踊りに参加を促し伝承、継承に適切な支援の取

り組みを続けたい。

大森副町長

語り手や三味線を弾く人が年を取り開催場所をまとめられないか相談されており、関係者、地域の代表者等と検討したい。

また、櫓の準備等については、倉庫からの出し入れ、車への搭載などのために多くの人員が必要ですが、原則、今までもおり初盆の家族とか親類の方にお世話いただき、町に要請があれば車の貸し出しや櫓の設置についても協力できることはしたい。現在、町にユニツク車等がないので、その準備までは考えていない。来年に向けて関係者と協議は続けていきたい。



慰霊踊りのやぐら

マイナンバー制度の周知徹底と個人情報保護を

一山議員

政府はマイナンバー制度の運用開始に向け、個人番号の通知を開始します。制